

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391500580		
法人名	株式会社サンガジャパン		
事業所名	グループホームかなれ翔裕館 1階		
所在地	愛知県名古屋市中区東区猪子石原三丁目2713番地		
自己評価作成日	令和3年 1月 6日	評価結果市町村受理日	令和3年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391500580-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和3年 2月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の以前からの元々の性格をくみ取り、その人らしく心穏やかに生活できるように、またできることはゆっくりご本人様のペースで参加して頂き、自立支援を心がけながら、できないことはそっと支援させて頂いております。また、笑顔で生活できるように支援させて頂いております。室内を清潔に、清掃、消毒等も含め、衛生面にも気をつけております。認知症ケアの研修を全職員に受講してもらい、認知症の理解に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットのモダンな外観の事業所は、開設から18年を経て地域の住宅の中に溶け込んでいる。コロナ禍において会社組織や管理者が交代する中で、会社理念と組織として大切となる「感動介護憲章」15か条や職員が意識すべき「行動指針」10か条を復唱しながら、日々のケアに活かすことに心がけている。家事活動や趣味の生け花など入居者が今できることを大事にし、傍に寄り添いながら支援をし、喜びや達成感を共にしている。皆の入居者は、職員や周りの入居者相互に支え合いをしながら、自分の足で歩き、自分の身の回りの事を自分のペースで行ったり、気の合う人とおしゃべりを楽しんだりして、その人らしさを発揮しながら生活をしている。日当たりの良い居間では、ガラス越しの日差しをのんびり感じながら、語らったり昔の歌を口ずさんだりして、「ここでの生活」を仲間と楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護認定に合わせできる事は一緒に喜び、出来ないことは羞恥心を考慮し、実践している	会社理念と組織として大切となる「感動介護憲章」5か条や職員が意識すべき「行動指針」10か条を玄関に掲示している。職員は、感動介護憲章や行動指針を日々のケアに活かすことを意識し、毎朝の申し送り時に復唱している。また、毎月の職員会議や研修時などで復唱したり内容について話し合い、確認して日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めるように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、外出などで、近所の方とあいさつ等、心がけているが、新型コロナの影響で、ほとんど外出出来ていない。	町内会に加入し、回覧板で情報を得ている。資源回収に協力し地域の一員としてのつながりや地域の商店、飲食店などの利用、散歩時や近隣の方との挨拶、地域サロンの参加など地域とのつながりを大切にしているが、新型コロナウイルスの感染防止のため自粛状態となっている。中学生の職場体験の受け入れや、大正琴や踊りなどの地域ボランティアの受け入れも中止しているが、今後収束に向かえば交流を再開する予定としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は関わる機会が少なく、地域の方との交流の機会である運営推進会議も、地域の方を招くことができなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者と、計画作成担当者が中心となって2か月に1回行っている。新型コロナの影響で委員会メンバーの参加はなかったので、書面にてご報告させて頂いている。	今年度は、新型コロナウイルスの感染予防のため書面による開催としている。例年では、入居者家族、自治会長、民生委員、連携病院の相談員、薬剤師、いきいき支援センターの職員の参加を得て年6回実施し、運営状況や活動内容、事故報告やヒヤリハットなど報告している。また、テーマを決めて毎回勉強会を実施している。参加者からの意見や提案等は協議してサービスや技術の向上に活かしている。議事録は家族に送付している。	今年度はコロナ禍と同時期に管理者の交代により、職員参加のもとに書面での開催としているが、案内や議事録を行政や地域関係者に配布していない。例年通り、案内や議事録を行政や地域関係者に持参したり、送付するなどして、コロナ禍における事業所の取り組みなどの理解や地域情報などの収集を得られる機会としていくことを願いたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に行っていない。	行政担当窓口には介護保険更新の手続きや申請の代行業務、市の助成金などの手続き等で訪問した折に、情報交換をしたり入所事例などで指導や助言を得るなど良好な協力関係を築いている。コロナ禍により市主催の事業者講習会や研修は中止となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体に取り付ける拘束はしていない。しかし玄関の施錠に関しては、交通量も多く、ケガ防止も含め行っている	身体拘束等のマニュアルを各ユニットごとに置いて意識を高め、身体のみならず、言葉や心の拘束にも配慮して、束縛感のない環境づくりに努め、職員間で認識の共有を図るようにしている。交通事情や安全のために玄関の施錠とセンサーマットの使用はあるが、家族からの同意を得ている。職員の交代や新規職員もいる中で、スピーチロックや不適切なかわりがないように努め、入居者一人ひとりのその日の気分や状態をキャッチし、職員の見守りの中で開放的で自由な暮らしができるような支援に心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払っている	書面にて各職員は、目を通し、把握している上で、見過ごすことのないように業務にあたっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なかなか学ぶ機会が少ない。関係者と話し合うことは管理者が行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心に行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話では常時対応させて頂いている。その他、玄関口にご家族等の意見を表せることが出来るよう、「ご意見箱」を用意している	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、申し送りノートに記録して職員間で共有しケアにつなげている。家族には電話で入居者の日々の様子を伝えたり要望等を聞いたりして、運営に反映させているが、コロナ禍により家族の面会が難しい状況が続いているため入居者の様子が家族に伝わりにくくなっている。意見箱を設置して意見を述べやすい環境を整えている。	コロナ禍により、面会などの制限があり、面会できない事情も理解している方も多いが、電話連絡だけに留まらず、家族に送付されるお便りなどにコメントや写真などを利用して入居者の日常の様子などを伝え、家族に安心を届けられる工夫や、得られた要望や意見を丁寧に適切に受け止め、明確な受け答えや説明を重ね、話しやすく相談しやすい関係や信頼感が保てる人的環境も整えていくことを望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に職員の提案、意見を聞いている。代表者には会うことがなかなかない	管理者の異動や新規職員の配置などの関係で、管理者は1階ユニットの職員の育成に努め、日常の業務の中から提案や要望を聞き、運営に反映させている。2階ユニットはリーダーを中心に職員の声に耳を傾け、なんでも話しやすい環境作りを努めている。人事考課により管理者は3か月に1回の面談を行い、意見や提案、悩みなどを聞く機会を設けている。面談シートに記入し評価して業務や処遇、職場環境などに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各施設の管理者を含め職員が向上心を持っているかまでは把握できていないと思われるが、第三者機関を利用しアンケート調査等を行い把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社が京都である為、管理者が管理を行っている。職員一人ひとりのケアは十分とは言えないが、話を聞く機会は設けている。研修も十分とは言えないが、行えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか学ぶ機会が少ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な要素はできるだけ取り除き、困っていることはさりげなく、受け入れ、手助けできるよう徐々に関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の心情を聞き入れ、安心できるよう配慮し、信頼を積み重ねることができるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なるべくたくさん会話をし、その中で見極め、何が必要なのか考え、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	楽しい時、悲しい時を協同し、1日、1日を共に大切に過ごしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族に定期的に伝え、時には家族と一緒に考え、一緒に支えあう努力をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所については全員の方に支援はできない現状がある。新型コロナの影響で面会にも制限があり十分な支援は行えていない。	アセスメントシートから生活歴や馴染みの人や場所を把握し、今までの生活が再現できる支援を目指している。コロナ禍により施設への訪問や外出は自粛となっているが、例年では、友人や知人の訪問、家族の協力を得て美容院やお墓参りに出掛けたり、自宅に帰って家族と過ごしたりして人や場所の関係が途切れないよう努めている。また、新聞や雑誌を見る習慣や日常生活の継続を生かした支援をしている。	職員が入居時のアセスメントを十分に把握し入居者の履歴を振り返りながら馴染みの情報を共有し、職員によって対応の差が生じないようなケアをしていくことを願いたい。また、入居者の想いがケアに活かされることも併せて望みたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性が似合った同士が関わり合えるよう時には職員が間に入って孤立しないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様からのご要望があれば、出来る範囲で応じる機会を作っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の思いに添うよう努めている。年齢も、生活してきた環境も、ご出身もさまざまなので、なるべく一人お一人に寄り添いながら要望をお聞きしている。要望がお聞きできない方は、ご家族様からお聞きしたり、生活歴等をヒントにしながら、その方の望まれるような支援に努めている。	入居者の気持ちに寄り添い、些細な変化を見逃すことがないように心がけたり、日常のさりげない会話や表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったことを連絡帳や介護記録に記載して、ケアにつなげるよう努力はしているが、職員のレベルに差がみられる。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から思いを把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討をして、一人ひとりの思いに寄り添う支援に努めている。	入居者に寄り添い思いや意向の伝え忘れなどがない事を基本として、日常の会話の中や些細な変化の気付きを記録に残し、職員間で話し合い入居者の思いを共有してどの職員も同じレベルのケアができるようお願いしたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、又は家族に今までの暮らし方を聞き、なるべくサービスに取り入れることが出来るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペースにあった過ごし方を取り入れるよう努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1度職員でミーティングを行い、計画作成担当者を中心に話し合いの場を設けている	毎月のミーティングでケアプランの短期目標をモニタリングし評価している。情報は職員間で共有しながら実践に取り組んでいる。6か月ごとに介護計画の見直しを行い、同時に本人や家族の意向や要望、医師や看護師など関係者の意見も反映させながら、現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭での申し送りだけではなく、必ず都度、記録を記入するよう指導している。排泄や体調について等、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化していることを念頭に置き「今までは」に囚われずみんなの意見も取り入れながら、臨機応変に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響で外出出来ていない。天気の良い日に屋上にて外気に触れて頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族とご本人のご意向を伺い、かかりつけ医に要望を聞いて頂いている。	家族の希望を優先にしてかかりつけ医の往診や月2回の提携医による内科医の往診を受けている。週1回訪問看護師による健康管理や体調の変化にも適切な指示が受けられる。必要に応じて歯科医による治療や歯科衛生士による口腔ケア、眼科の往診も受けられる。身体状況に変化があった時や緊急時は24時間体制で提携医や協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ささいなことでも訪問看護師に相談をし、適切な指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携はとれている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師、管理者を交えて、ご希望に添うことができるよう支援している	重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度入居者や家族に希望を再確認し計画の見直しを行っている。医師や訪問看護師と24時間の支援体制を整え、入居者にとって最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。職員会議の中でターミナルケアについての話し合いや職員のメンタルについての研修も行い、職員の気持ちを統一するよう努力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っていないが、急変時のマニュアルは各フロアに設置し、管理者にも連絡するよう連携している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を活用している。夜間想定訓練も行い、人が少ない時でも装置等を利用し、すばやく避難、通報できるよう年2回訓練している。	年2回消防署員の協力を得て防災マニュアルを利用し、火災や地震など様々な災害を想定した避難訓練を昼間や夜間の職員体制で実施している。避難誘導や避難経路の確認や消火活動、救急救命などの指導や助言を受け問題は職員で話し合い改善に努めている。従前は、備蓄品は水や食料、カセットコンロなど職員の物資も含め3日分が用意されていたが、現状では、コロナ禍や管理者交代のため不明瞭になっている。	新規採用の職員が多くなったため、全職員に再度消防機器の取り扱いの周知を願いたい。また、どの職員も一目でわかるよう備蓄品をリスト化し保管場所の明記や期限などを明確にした管理ができるよう望みたい。また地域のハザードマップを確認し想定外の災害や水害に対応した避難訓練や専門家の意見も参考にして、入居者の安全と緊急時に備えることを願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握し、その方に合った声かけ対応をしている	人生の先輩として、これまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使い、声のトーンなどお互いチェックし合える職員の関係づくりや入居者の個性や人格などを考慮した支援ができるよう努力しているが職員の意識レベルの差が見られる。	職員一人ひとりが「その方の誇りやプライバシーを守る」ということについて理解できるよう、会議などで話し合いを重ね環境の整備や介護における対応についてなど具体的に理解されることを望みたい。また、社内の研修計画に組み込まれている尊厳やプライバシー、接遇などの研修が活かされることを願いたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを引きだせるような声かけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中でその方のペースにあった行動はしているが、業務に追われてしまい、充分希望に据えてはいない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは絶対に必要とし、常に心がけて支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片づけは限られた人になるが、温かくおいしく食事ができるよう努力している	栄養バランスの良い献立で作られた食材を業者から購入している。ご飯と味噌汁は、事業所で調理している。おせち料理などの行事食やおやつや和菓子や惣菓子などの提供もあり季節感を味わう事ができる。コロナウイルスの感染予防のため現状では盛り付けや準備や後片付け、おやつ作りなど自粛状態となっているが、コロナが落ち着いた折には入居者の得意分野を生かしたおやつ作りや外食も予定している。	コロナ禍により制限されることが多くあるが、楽しめる食事にはどのようなものがあるのか職員全体で話し合い、工夫されることを望みたい。また、入居者も一緒に参加してメニューから選べる食事やおやつ作り、テイクアウトなど利用して楽しめる食事の提供ができることを期待したい。更に、食材を盛り付ける器の工夫をし、見た目にも食欲をそそる食事の提供を願いたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	とろみをつけたり、摂取しやすいようなコップを選び、水分確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の指示の下、その人にあった口腔ケアを行っている。ご状態によって、歯ブラシだけではなく、スポンジ等も使用し、口腔内の清潔に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ内に排泄できるよう一人一人の排泄のリズムに合わせ誘導している。必要な方へは二人介助で支援させて頂いている。	個々の排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は可能な限り自力での排泄を目指している。夜間も尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切にし、見守りと誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の食物を提供し、水分を多めに摂って頂いたり、服薬等で排便コントロールに努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間、曜日は決定しているが、リラックスできるような雰囲気作りに努めている	入浴は一人ひとりの体調や状態を考慮して週に2回、個浴や二人介助の機械浴で気持ちよくゆっくり入浴が楽しめるよう配慮している。冬季浴室は暖房機やシャワーを利用し、浴室を暖めヒートショックに配慮している。季節を感じる菫湯も予定している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したり、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。入浴後は化粧水などを利用して肌の乾燥に注意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の臥床を取り入れている、入床前は温かいお茶を提供したり安心して眠れるような声かけ、寄り添う等行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が理解しているとは言い難い。特に新人については、難しい部分もあるので、支えていくことも必要であると感じている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲内のことを押し付けず、支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、屋内散歩等支援している。新型コロナの影響で外出はできないが、天気の良い日には屋上に出て頂き外気浴をして頂いている。	新型コロナの影響により、日々の散歩や外出は中止となっているが、天気の良い日には屋上テラスで日光浴など外気に触れる機会を大切にケアに心がけている。コロナ禍でなければ、日常的に散歩や買い物に出かけられる環境にあり、入居者一人ひとりの希望にそって、喫茶店や外食、ショッピングセンターで買い物などの外出支援をしている。また、初詣や季節の花見に出かけるなど入居者の希望が叶えられるよう努力している。	新型コロナの影響があり会社より外出の禁止の通達があるが、どこまでを外出とするかの線引きに同系列の施設の考え方を統一し、四季を感じたり外気に触れる環境の提供をしていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭のお預かりはしていません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話をかける支援は行っていないが、ご親族や知人からの電話には、ご希望があれば取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者がわかりやすい作りになっている。季節の折々にはイベントを催している。リビングにおいては、ゆったりとすごせるような配置に努め、床暖房、エアコンにて温度調整をし、快適な温度で過ごすことができるよう努めている	居間は、日当たりがよく明るく風通しの良い生活空間で、壁には季節ごとの飾り物がさりげなく飾られ落ち着いた雰囲気になっている。廊下の暖房や居間の床暖、加湿器などの設備を整え感染症の予防対策としている。居間と食堂は兼用で、入居者は、ソファでくつろいだりテレビを見たり、食堂の椅子や廊下の和風ベンチに腰かけておしゃべりしたりしてのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	よく会話をする方、それぞれの個性に合わせて、椅子を移動したり、ソファに掛けて頂いたり、その時々のお気に沿った居場所作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具・小物・写真など、持ち込んでいただき、落ち着き、安心できるよう努めている	居室入り口には、表札を掲げ自宅玄関の雰囲気になっている。部屋には洗面台が備え付けられ、毎日の歯磨きや、入浴後の顔の手入れなどができるようになっている。また、使い慣れた整理筆筒やお気に入りの椅子、テレビ、などを持ち込んだり、手作り作品や写真などを飾って居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものは手の届かない場所に置き、安全かつ、自立活動ができるよう工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391500580		
法人名	株式会社サンガジャパン		
事業所名	グループホームかなれ翔裕館 2階		
所在地	愛知県名古屋市中区東区猪子石原三丁目2713番地		
自己評価作成日	令和3年 1月 6日	評価結果市町村受理日	令和3年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391500580-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和3年 2月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の以前からの元々の性格をくみ取り、その人らしく心穏やかに生活できるように、またできることはゆっくりご本人様のペースで参加して頂き、自立支援を心がけながら、できないことはそっと支援させて頂いております。また、笑顔で生活できるように支援させて頂いております。室内を清潔に、清掃、消毒等も含め、衛生面にも気をつけております。認知症ケアの研修を全職員に受講してもらい、認知症の理解に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットのモダンな外観の事業所は、開設から18年を経て地域の住宅の中に溶け込んでいる。コロナ禍において会社組織や管理者が交代する中で、会社理念と組織として大切となる「感動介護憲章」15か条や職員が意識すべき「行動指針」10か条を復唱しながら、日々のケアに活かすことに心がけている。家事活動や趣味の生け花など入居者が今できることを大事にし、傍に寄り添いながら支援をし、喜びや達成感を共にしている。皆の入居者は、職員や周りの入居者相互に支え合いをしながら、自分の足で歩き、自分の身の回りの事を自分のペースで行ったり、気の合う人とおしゃべりを楽しんだりして、その人らしさを発揮しながら生活をしている。日当たりの良い居間では、ガラス越しの日差しをのんびり感じながら、語らったり昔の歌を口ずさんだりして、「ここでの生活」を仲間と楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護認定に合わせできる事は一緒に喜び、出来ないことは羞恥心を考慮し、実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、外出などで、近所の方とあいさつ等、心がけているが、新型コロナの影響で、ほとんど外出出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は関わる機会が少なく、地域の方との交流の機会である運営推進会議も、地域の方を招くことができなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者と、計画作成担当者が中心となって2か月に1回行っている。新型コロナの影響で委員会メンバーの参加はなかったため、書面にてご報告させて頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に行っていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体に取り付ける拘束はしていない。しかし玄関の施錠に関しては、交通量も多く、ケガ防止も含め行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	書面にて各職員は、目を通し、把握している上で、見過ごすことのないように業務にあたっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なかなか学ぶ機会が少ない。関係者と話し合うことは管理者が行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心に行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話では常時対応させて頂いている。その他、玄関口にご家族等の意見を表せることが出来るよう、「ご意見箱」を用意している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に職員の提案、意見を聞いている。代表者には会うことがなかなかない		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各施設の管理者を含め職員が向上心を持っているかまでは把握できていないと思われるが、第三者機関を利用しアンケート調査等行い把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社が京都である為、管理者が管理を行っている。職員一人ひとりのケアは十分とは言えないが、話を聞く機会は設けている。研修も十分とは言えないが、行えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか学ぶ機会が少ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な要素はできるだけ取り除き、困っていることはさりげなく、受け入れ、手助けできるよう徐々に関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の心情を聞き入れ、安心できるよう配慮し、信頼を積み重ねることができるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なるべくたくさん会話をし、その中で見極め、何が必要なのか考え、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	楽しい時、悲しい時を協同し、1日、1日を共に大切に過ごしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族に定期的に伝え、時には家族と一緒に考え、一緒に支えあう努力をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所については全員の方に支援はできない現状がある。新型コロナの影響で面会にも制限があり十分な支援は行えていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や好みを把握し負担にならない程度に関係性の構築を支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会時に普段の様子や生活状況をお伝えし相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し可能な限り本人本位に検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、又は家族に今までの暮らし方を聞き、何気ない一言を参考に、なるべくサービスに取り入れることが出来るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックを細かく注意しながら小さな変化も見逃さないようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1度職員でミーティングを行い、計画作成担当者を中心に話し合いの場を設けている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭での申し送りだけではなく、必ず都度、記録を記入するよう指導している。排泄や体調について等、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化していることを念頭に置き「今までには」に囚われずみんなの意見も取り入れながら、臨機応変に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り自身でできることはして頂き必要に応じて職員が手伝うことで自身の力を発揮しながら安全に暮らせる環境を提供している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族とご本人のご意向を伺い、かかりつけ医に要望を聞いて頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる情報は記録に残し訪問時に伝達、直接様子を見てもらう		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	2週に一度の往診時には最近の情報を確実に伝え相談し、指示をもらっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師、管理者を交えて、ご希望に添うことができるよう支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っていないが、急変時のマニュアルは各フロアに設置し、管理者にも連絡できるよう連携している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を活用している。夜間想定訓練も行い、人が少ない時でも装置等を利用し、すばやく避難、通報できるよう年2回訓練している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握し、その方に合った声かけ対応をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを引きだせるような声かけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中でその方のペースにあった行動はしているが、業務に追われてしまい、充分希望に据えてはいない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは絶対に必要とし、常に心がけて支援している スカーフやショールで工夫して笑顔を頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片づけは限られた人になるが、副食の盛り付け、誕生日会のケーキ作り等、積極的に参加して頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	とろみをつけたり、摂取しやすいようなコップを選び、水分確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の指示の下、その人にあった口腔ケアを行っている。ご状態によって、歯ブラシだけではなく、スポンジ等も使用し、口腔内の清潔に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ内に排泄できるよう一人一人の排泄のリズムに合わせ誘導している。必要な方へは二人介助で支援させて頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の食物を提供し、水分を多めに摂って頂いたり、服薬等で排便コントロールに努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間、曜日は決定しているが、リラックスできるような雰囲気作りに努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の臥床を取り入れている、入床前は温かいお茶を提供したり安心して眠れるような声かけ、寄り添う等行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が理解しているとは言い難い。特に新人については、難しい部分もあるので、支えていくことも必要であると感じている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲内のことを押し付けず、支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、屋内散歩等支援している。新型コロナの影響で外出はできないが、天気の良い日には屋上に出て頂き外気浴をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭のお預かりはしていません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話をかける支援は行っていないが、ご親族や知人からの電話には、ご希望があれば取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者がわかりやすい作りになっている。季節の折々にはイベントを催している。リビングにおいては、ゆったりとすごせるような配置に努め、床暖房、エアコンにて温度調整をし、快適な温度で過ごすことができるよう努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	よく会話をする方、それぞれの個性に合わせてたり、椅子を移動したり、ソファに掛けて頂いたり、その時々のお分に沿った居場所作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具・小物・写真など、持ち込んでいただき、落ち着き、安心できるよう努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものは手の届かない場所に置き、安全かつ、自立活動ができるよう工夫している		